

二本松市
議会内会派

市政刷新会議会報

謹賀新年



本年も会派一丸となり
会派活動を行ってまいります。



市政刷新会議会長
野地 久夫
産業建設常任委員
議会運営委員

新年あけましておめでとうございます。

皆様には希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。議会は市長から提案される案件に対し、審議の場に多様な意見を反映させ、審議の過程で様々な意見を出し合い、その可否について決定する権限を有すると共に、議会は住民の代表で住民に身近な存在であり、地域の状況と市の施策を確認・調査して議論すると共に、提言することにより行政サービスの向上を図ります。

また議会は、主権者である住民に代わって執行機関を監視・評価し、執行機関の独走をチェックする機関でもあります。

私ども「市政刷新会議」は市の繁栄と市民福祉の向上を目指し、皆様の声を反映させ、一步一步着実に進展させるべく提言と改革を進め活動してまいります。

『実践躬行』口先だけでなく実行することが大切です。



平栗 征雄
文教福祉常任委員
議会運営委員

新年あけましておめでとうございます。

少子高齢化社会が一層進行して参りました。市政は現在、未来社会の一員となる子供への支援に取り組むと同時に、今まで社会活動に貢献された高齢者の生活活動支援にも力を注いできています。

(ひとり寝に 早く起きよと ホーホケキョ)・・公園からの鳴き声で。
(今年こそ プール歩きで 春を呼び)・・腰痛改善のため。

少しずつ私たちの暮らす生活環境も変化してきており、「行政のまちづくりの方向性」が分かり次第、まちの進展を図るためにも、市民皆様の前向きな協力と支援は、必要不可欠な必須条件です。そのように感じる昨今です。

本年も皆様の一層のご健康・ご多幸をお祈りいたします。



佐藤 源市
文教福祉常任委員
安達地方広域行政
組合議会議員

新春を迎え心からお慶び申し上げます。

今年度はスポーツの祭典東京オリンピック大会が7月に開催され、本市出身である福島県カヌー界のホープ宮田悠介選手がカヌースプリント競技に出場が決定され、大きな話題を呼んでいる。本市からは北京オリンピック以来の快挙であり、入賞へのメダル獲得へ大きな期待が寄せられております。市民の皆さんで大声援をし、活躍を盛り上げていきたいと思っております。

また地域経済は人口減少の中、東日本大震災、台風19号と度重なる大災害に見舞われ復旧復興の中、横這いの状況に推移しており、今後一層の経済力をつけるならば、企業誘致、雇用促進、六次産業への新たな取り組み、賑わいのある観光交流を推進し、地域活性化、定住人口の増加を目標とすべきであります。

本年も市民の皆さんの幸をお祈り申し上げます。



市政刷新会議幹事長
鈴木 一弘
総務市民常任委員
議会運営委員

新年明けましておめでとうございます。

我が国では平成から令和へと元号が変わり、初となる新年を迎え転機の年です。転機をチャンスと考え本市も大きく躍進できればと願うところです。

昨年は台風災害に悩まされましたが、市としても早期の復旧を約束しているところでもあります。今年度は工業団地、メガステージ、二本松城文化観光施設等ビックプロジェクトが動き出します。そしてオリンピックの年でもあります。

今後の二本松市も人口減少の進む中ではありますが、平成生まれの方々も12年目の成人式を迎え、そうした人たちが自由闊達に地域社会創りをしていける次世代の未来を切開くために精一杯頑張っております。

本年も皆様にとって幸多い年となりますようお祈り申し上げます。



市政刷新会議副会長
佐藤 運喜
文教福祉常任委員
安達地方広域行政
組合議会議員
議会広報委員長

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

今年度は「子」干支の初めの年であります。本市も初心に立ち返り長いスパンで、ほんとうの空、美しい都市づくりのスタートの時と考えます。また加えて、半世紀ぶり2度目の2020東京オリンピックが開催されます。一陽来復、明るい未来へ、ヒントや話題を吸収してしっかりと進んでいく所存であります。

市議会では、我ら会派一丸となり市政進展に尽力いたします。農業者としても、将来日本の自給率等を危惧し、農(業)福(祉)連携による地域農業の再構築と民間活力による地域活性化に最大限努力致します。

「危急存亡の秋(とき)」市民の福祉向上、幸せの為、引き続きまんじりともせず前進していきます。



市政刷新会議会計
齋藤 徹
産業建設常任委員
安達地方広域行政
組合議会議員

新年あけましておめでとうございます。

人口減少・少子高齢化の進む中で、持続可能な安心・安全に生活できる街を目指す為には、安定した財源の確保をし、医療・介護・子育て・教育・警察・消防・社会資本整備等、幅広い住民サービスを効果的・効率的に行っていく必要があります。その為に、市民・地域団体・企業と協働で参画できる仕組みを構築し公民連携で行い、様々な意見を集約し、行政に反映できる体制づくりに努めてまいります。

また、二本松駅南・杉田駅周辺の整備や二本松城文化観光施設などの建設を通し、市民を取り巻く生活環境が変化していくと思われれます。引き続きご意見をいただければ幸いです。

今年度は子年です。鼠は『五穀豊穰』と『商売繁盛』をもたらす大黒天の使いとされています。市民の皆様の本年が鼠にあやかり、幸多き年となりますよう祈念いたします。

「市政刷新会議」の目指す方向性

- 議会基本条例に則り、市民福祉の向上と市政進展に寄与してまいります。
- 議会は自治体の意思決定機関であり、公平性、公正性、透明性を確保してまいります。
- 審議の場に多様な市民意見を反映させ、積極的に政策立案や政策提言に努めます。
- 「すべてはこどもたちの未来のために！」をモットーに次世代を見据えた活動をしてまいります。

↑ 市政刷新会議活動報告 ↓

行政視察報告

岩手県紫波町
岩手県滝沢市

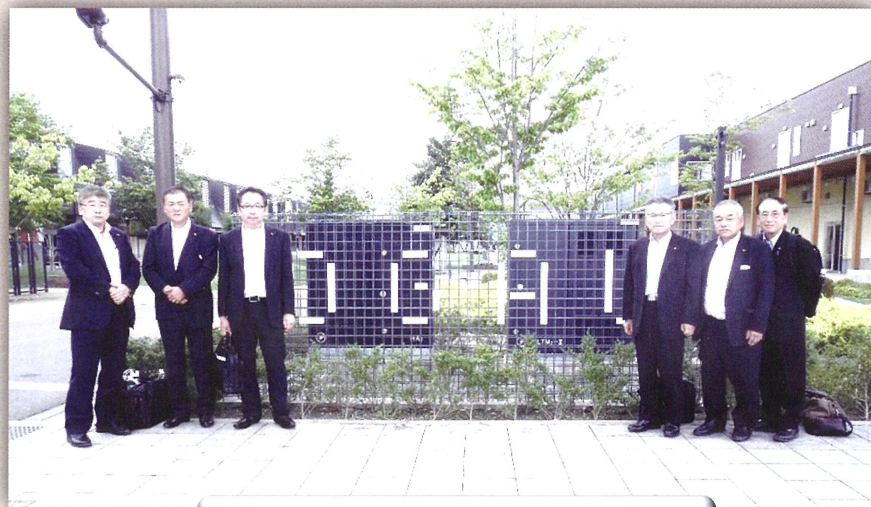
紫波町オガールプロジェクトについて

H21年からオガール紫波(株)を設立、補助金に頼らない公民連携のまちづくりを進めた。想像に余る素晴らしい事業であり、二本松市においても多方面の事業に取り入れるべきと思われた。

例えば、今、進めようとしているパークゴルフ場建設に民間手法(PFI)もとりいれたり、民間企業や市民の資金提供など民間活力を大いに活用すべきである。

社会が縮小し需要が縮んでいく中、公共が投資したからと言っても民間がついていかない。儲からない事業に民間は投資をしない。今後は地方財政が縮小する中、公共が民間より先んじてしっかりと稼げる投資をしなければならない。稼げる投資こそ本当の地域活性化に寄与する。

公共施設の民間運営を積極的に進め、民間活力採用にもシフトを変える必要な時と考える。稼ぐインフラ、身の丈に合った規模で稼ぐ仕組みを考える必要がある。



オガールプロジェクトにて



滝沢市総合計画について

滝沢市の研修で学ぶべきものは、住民が「地域は地域のみんなで作る」という住民主体のまちづくりであった。

「チャグチャグ馬コ」で受け継がれているのは、地域の発展に貢献してきた馬への感謝を表すもので、そのような地域だからこそ「ちいきはちいきでつくる」という考えが醸成されたのでは。

若い皆さんにわかりやすいイラストのパンフレットを作成し、理解を深めている取り組みは、本市でも地域特有の行事などに大いに参考にすべきだ。

「幸福」をキーワードとし、総合計画の役割を地域住民が「幸福」になること、計画と市民生活が身近なものに市民のものに考えられる。職員の理解や努力だけでなく、市民の強い協力があってこそ総合計画が早く完成するものと説明から伺われた。

今後8年かけて臨むと言う事業、市民の「幸福」はまだ半ばだがぜひ叶えて手本を示してほしい。本市にとっても住民の「幸福」実現は同じである。再度その研修に行きたい。



滝沢市役所にて

安達地方仮設焼却施設研修 (廃棄物減容化処理施設)

市内視察研修として安達地方仮設焼却施設を研修いたしました。

本施設は、国(環境省)と安達地方広域行政組合(二本松市・本宮市・大玉村)が共同して、可燃性除染廃棄物、農林業系廃棄物を焼却により減容化する施設で、東和地区戸沢字熊ノ久保地内に平成29年度に着工され令和元年5月に完成いたしました。令和3年末には全ての対象物が焼却処理完了、その後、施設すべてを解体撤去され事業終了する予定であります。

焼却予定量は、可燃性除染物約8万4,000トン、農林業系廃棄物(堆肥・牧草・稲わら・ほだ木等)約2万4,000トン、合計約10万8,000トンを処理される予定で、850℃以上の高温で焼却し、放射性物質を含むばいじんを除去する集塵装置は2重(2機)に設置され、煙突には排ガス監視装置による連続測定及び放射性物質の連続監視を実施し、排ガスに異常のないことを常時確認されています。プラント排水は排ガスの冷却に再利用され施設外には放流されていません。令和元年12月までに全体の約2割が焼却されました。焼却灰は大熊町等の中間貯蔵施設に運搬されています。

放射性物質測定モニタリングポストは場内4カ所、施設進入路入口と合計5カ所で連続監視されており、万全の安全管理体制を確認されました。令和3年末稼働終了、令和5年1月末施設撤去終了、安全で着実な事業終了を願うものであり、設置地域皆様のご協力に感謝申し上げます。



仮設焼却施設研修状況

